

平成26年

1月号



12月25日発行

特定非営利活動法人 ワーカーズコープ

森下ふれあいセンターだより  
(森下分館)

住所: 江東区森下5-11-1 電話番号: 5624-6030  
開館時間: 午前9時～午後5時 休館日: 第2・4日曜日  
ホームページ: <http://kotoroufuku.web.fc2.com/>

## 不定期連載「茶のみばなし」

### ●深川生まれの映画監督(前篇)

今や世界の映画史の頂点に君臨する小津安二郎監督(1903～1963)が深川の出身であることは有名ですが、深川は少なくとももう一人の名監督を生んでいます。

小津とも親交の深かった井上金太郎監督。小津の仲間内での呼び名が「おっちゃん」だったのもよく知られたことですが、小津は井上を「金坊」と呼んでいたことが戦前の発言記録からわかります。

映画監督・井上金太郎は、明治34(1901)年10月15日、旧東京市深川区に生まれました。子供の頃から活動写真と芝居を好み、府立三中(現都立両国高校)を4年で中退して、映画界に入ったのは大正8(1920)年。同年、私淑していた作家谷崎潤一郎が製作顧問として参加して設立された大正活映株式会社の俳優募集に応募、栗井饒太郎(くりいじょうたろう)の芸名でデビューしました。その頃まで我が国の映画の多くは、歌舞伎とその流れを引いた現代劇である新派(いずれも女形が出演していた)に強い影響を受けた演劇の映像化にとどまっていたが、この頃から演劇から独立した独自の芸術としての映画作りが各所で始まりました。大正活映はそのような革新的な映画作りを目指した前衛志向の映画会社でしたが、経営不振のため短命に終わりました。井上はその後、京都の牧野教育映画(のちのマキノプロダクション)へ移籍。ここは日本初の本格的な映画プロデューサーであり、映画監督であった「日本映画の父」牧野省三が経営する会社で、大正時代後期から時代劇の水準を画期的に高める映画が作られていました。井上は主演級の俳優となりましたが、のちに牧野の監督助手を経て、大正12(1923)年に映画監督となりました。井上が監督した当時売り出し中の阪東妻三郎や月形龍之介が主演した時代劇には、「異人娘と武士」('25年阪妻プロ第1回作品)「転落」('26年キネマ旬報ベストテン第9位)「道中悲記」('27年ベストテン第10位、井上の没後、マキノ教育映画時代以来の盟友・内田吐夢監督により「血槍富士」として再映画化)など、単なる封建主義の礼賛や超人的な強者の活躍を描くような一般の時代劇とは違った、血の通った人間的な主題をもった作品、問題提起を含む作品が少なくなかったようです。しかし、残念ながらこの時代の井上作品のフィルムは現存していないようです。次号につづく(SHしるす)

# 森下ふれあいセンター 1月の予定

健…健康相談 1,3水曜 1:00~4:00 ●…事前申込が必要な行事など  
印がないものは受講生確定済みの為、受講生以外の参加は出来ません。

日	曜	午 前	時間	午 後	時間	健	
1	水	年末年始の為休館致します。 平成25年12月29日 ~ 平成26年1月3日 本年もセンターをよろしくお願い申し上げます。					
2	木						
3	金						
4	土						
5	日						
6	月						
7	火						
8	水					健	
9	木						
10	金						
11	土			● シネマ倶楽部	1:30		
12	日	休 館 日					
13	月						
14	火			水墨画	2:00		
15	水						
16	木						
17	金			悠々英会話	2:00		
18	土			● シネマ倶楽部	1:30		
19	日						
20	月						
21	火						
22	水					健	
23	木						
24	金			日本文学	2:00		
25	土						
26	日	休 館 日					
27	月						
28	火			水墨画	2:00		
29	水						
30	木						
31	金						